



菅波 茂

4月27日、AMD A本部。

朝から元気の良い声が聞こえてくる。AMD A高校生会の集會が開かれていた。県内の複数の高校から集まって来ている。03年の活動方針を討論している。しばらくして「フー」の叫びが華やいた歓声。會議が終了し、お茶の時間になったらしい。

突然、5人の高校生が私の部屋に入ってきた。「お茶をどうぞ。ドーナツありがどうございました」と。1人はリーダー、他の4人は新規會員の高校生だった。「ありがどう、頑張ってください」と激励した。日本はまだ大丈夫」と天の声を聞いた気がした。

AMD A高校生会は95年秋に発足。中国雲南省、ネパール、カンボジアの教育支援を行い、現在は、ミャンマーの医療支援をしている。

ドーナツは姫路にある大手製菓会社の中山政幸社長が寄付してくださったものだった。彼は社内でもパーティーを開く時にも社員から必ず費用を徴収しているという。パーティー費用は会社の経費にもかかわらずである。社員から徴収した費用はすべてボランティア団体に寄付してきた。「無料は人間の心を卑しくする」というのが、彼の信念である。彼の会社が大きくなっている秘密を垣間見た気がした。「友あり。遠方より来る」の妙味である。

AMD A高校生会

AMD Aの哲学も一致している。AMD Aは世界各地で貧困対策のプロジェクトを実施しているが、受益者には貧しくともお金を払ってもらっている。理由は人権を尊重しているからである。人権とは存在を認めること。存在を認めるとは「あなたを忘れません。あなたに関心がありまます。あなたを必要とします」ということである。無料とは「あなたを必要としていません」ということである。必要としていません」というメッセージになる。ネパールにある「AMD A母と子の病院」には、山奥から1〜2日かかって病気の子どもを連れて治療に来る。山奥に住む人たちに現金収入はないに等しく、当然ながら治療費は払えない。この

時は病院の環境整備などの労働をしていた。彼らは喜んで働く。そして元気になった子どもを連れて山奥の家に帰っていく。

AMD Aには日本全国から志の高い若者が本部スタッフ及び海外派遣者として応募してくる。海外派遣者が貴重な体験をして帰ってくる。海外支部のメンバーも来る。彼らの活動を支えてくださる人たちも来られる。狭いながらも志の渦巻く空間である。志の原点は「人は誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある」とことである。AMD A高校生会のメンバーは間違いなく、将来の日本の財産である。いい体験をしていたきたい。すくすくと育ってほしい。
(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)